

日本とベトナムをつなぐ友好の架け橋 ～救命救助のスペシャリストがハノイ市で研修を実施～

シンガポール事務所

1億人近い人口があり、年平均7%以上の成長率を維持しているベトナム。しかし、経済成長に伴い都市化が進み、工場・住宅の火災など大規模な災害も増加しています。

そこで、自治体国際化協会（以下、CLAIR）の「自治体国際協力専門家派遣事業」を利用して、東京消防庁の職員3名が専門家としてハノイ市消防局へ赴き、救助技術の研修を行いました。

当事務所からも支援を実施しましたので報告します。

1. 指導研修の概要

2014年2月17日（月）から3月7日（金）までの約3週間、東京消防庁第三消防方面本部の伊藤剛消防司令、消防救助機動部隊の塚本康秀消防司令補、消防救助機動部隊の吉岡聡消防士長の3名がハノイ市消防局へ派遣され、救助技術の指導研修を行いました。ハノイ市消防局は警察部局の中に設置され、現在約1800名の職員で構成されています。ハノイ市内に13の消防署を有し、消火・救助を主な業務としています。今回、ハノイ市内にある消防局訓練場において、救助活動技術や火災時の救助技術の向上、安全管理を重視した消防活動の指導等、実践的な救助知識・技術を幅広く修得することを目的として研修が行われました。

本研修には、管内の消防署から選抜された、20代を中心とする若手救助隊員計48名が参加し、3班体制で訓練が実施されました。研修生は、今後、派遣元に戻り今回の研修成果を消防署にフィードバックし、若きリーダーとなることが期待されています。

2. 総合訓練の披露

研修は3週間にわたり実施され、後半は最終日の総合訓練の発表に向けて、実践的な予行演習を幾度も繰り返しました。当日は、朝から雨が降り続くあいにくの天候でしたが、ハノイ市消防局長をはじめとする幹部職員や関係者が見守る中で、3週間にわたる訓練の成果が披露されました。



幹部職員に総合訓練開始の宣言



総合訓練を見守る幹部職員

先ず1班は、①訓練所の建物の屋上から救助ロープを利用して地上に降りる訓練、②地上の負傷者を高層階に移送する訓練を発表しました。



①身体懸垂による降下法



②傷病者の救助措置

次に2班は、臨時に設置された鉄骨棟の上層階から訓練所の上層階へロープを伝う移動訓練を披露しました。訓練生は鉄骨棟と訓練所の2地点に分かれ、a 救助実施者を送り出す支援者、b 救助実施者を待ち受ける支援者、c 救助実施者の3グループに分かれて、確実に安全な建物間の移動訓練を行いました。



ロープを伝って移動する渡過法の様子



ロープを伝って移動する渡過法の様子

最後に3班は、臨時に設置された鉄骨棟にいる要救護者を救出するため、地上から脚立を利用して上層階に昇り、上層階の要救助者を下層階に移送する訓練を披露しました。

訓練生相互の意思疎通や相互連携が不可欠な事から、訓練時は互いに声を掛け合いながら、一つ一つの作業を確実に行って行っていました。



単梯子を利用して上層階の救出に向かう様子



上層階から移送する様子

3. 閉講式

閉講式では、ハノイ市消防局長、伊藤消防司令が研修を総括したスピーチを行いました。最後にハノイ市消防局長から東京消防庁の専門家3名に記念品が贈呈され、閉講式が終了しました。



消防局長からお礼のスピーチ



幹部職員と専門家の記念撮影

4. 国際交流の現場から

今回指導にあたった専門家から、当地の消防署においては現場で使用される資機材（ロープ、滑車等）や個人装備（ヘルメット、手袋、編上作業靴、安全帯等）が不足しているとの指摘がありました。専門家でない我々から見ても、①ヘルメット、②手袋、③靴という救助に必要な不可欠な道具が完備されていないことに気が付きました。消防署員の安全が確保されなければ、市民の生命を守ることはできません。私たちも何かの支援ができればと感じました。



運動靴で訓練



様々なヘルメット

一方で、研修生は真面目で熱心な姿勢で研修に取り組みました。最終日に行われた総合訓練では、素晴らしいチームワークを発揮し、訓練の成果を大いに発揮しました。

研修終了後、専門家が研修生に感想を尋ねたところ、「今回の3週間にわたる研修は厳しい訓練であったが、専門家の熱心な指導の下で災害時の救助方法が学べました。心から

感謝しています。」との返答が多くの訓練生から聞くことができました。今後、研修を終了した研修生48名が、派遣元に戻り指導者としてハノイ市での消防活動において有効な活動技術を他の職員に技術指導することで、ハノイ市消防局全体の技術が確実にレベルアップしていくと思います。



修了証の授与



修了証

閉講式の挨拶時やお別れの懇親会の場においても、専門家はハノイ市消防局長を含め幹部の方から「東京消防庁による救助訓練は大変参考になった。専門家からは多くの事を教えてもらい感謝している。今回の訓練を機会に東京都とハノイ市の友好関係が更に深まった」との発言がありました。

懇親会の場では研修生が専門家への感謝の気持ちと別れの寂しさから互いに涙する姿も見られました。

CLAIR では今後も日本の自治体職員が有する高度な専門技術を海外で生かすことができる場を提供し、日本と海外の交流を支援していきます。

(仲田所長補佐 堺市派遣)

CLAIR